

「聞こえない」も、いろいろ 「コミュニケーション方法」も、いろいろ

「聴覚障害」は、音や声が聞こえない、あるいは聞こえにくい、という障害です。

聞こえの程度は人によって違い、育ってきた環境や聞こえにくくなった事情によって、コミュニケーションの手段も手話、文字、音声など異なります。

難聴者



音が聞こえにくい人。補聴器を使って、聴覚を補うことで、会話ができる人もいます。

ろう者



一般的に、重度の難聴者で、幼児期以前に聞こえなくなった人。音声言語で話すことが難しい人が多く、手話を第一言語として使う人が多くいます。

中途失聴者



大人になってから聞こえなくなった人は、言葉を聞いて育っているのだから、はっきりした発音ができる人もいます。

中度難聴者



片耳が聞こえない、または中度の難聴(※)の人。障害者手帳は交付されません。

※聴力50dB以上。60dBは普通の話し声が聞こえる程度。

人工内耳



手術で内耳に電極を植え込み、聴覚を取り戻している人もいます(聞こえのレベルには個人差があります)

高齢難聴者



加齢により、耳の機能が低下して、聞こえにくくなる人もいます。聞こえにくさは人によって異なりますが、補聴器をつけることで、聞こえにくさをある程度は解消できます。

盲ろう者



耳が聞こえないだけでなく、目も見えない人もいます。触手話や指文字、手のひらに文字を書く手書き文字などの方法でコミュニケーションをとります。

イラスト:aki

参考:『みんなで考えよう障がい者の気持ち ②聴覚障がい』2010年、株式会社学研教育出版
『聴覚・言語障害者とコミュニケーション』2007年、一橋出版